

令和3年度 大阪府立桜塚高等学校（定時制の課程）

「第3回学校運営協議会」報告

【日時】令和4年2月22日（火） 15時～17時

【場所】会議室

【出席者】学校運営協議会委員： 城下 英行、 島村 宏二、 北之坊 晋次※
永井 敏輝、 飯野 哲生、 大村 奈奈

准校長： 田中 徹

事務局： 武内 由佳（教頭）、二子石 知恵（主査）

※書面による出席者

【報告事項】

（1）保護者からの意見書の提出状況

（2）令和3年度学校教育自己診断について

准校長：本校は少人数で教育活動を行っていることもあり、生徒・保護者ともに肯定的回答の割合は各設問とも一定の評価をいただいている。今年度気になったのは、「授業について工夫している先生が多いようだ」の質問への肯定的回答が生徒92.8（R2：94.3）に対し、保護者68.8（R2：74.6）であった点である。授業や教育活動の保護者に対する情報提供など行っていかなければならないと感じる。教職員からの回答では、「准校長は学校運営にリーダーシップを発揮している」が9人/15人（R2：11人/13人）となっている点については、准校長として、反省も含め今年の学校運営を振り返りながら、次年度に生かしていきたいと考えている。

A委員：生徒が、家庭で話すのは不満のある部分のことが多いので、アンケート結果がそのようになることはあると思う。

B委員：授業に関して、ほとんどの先生が工夫してよくやってくれていると聞いている。しかし一部生徒から見て不満を感じる授業もあるようだ。その授業が複数の生徒から同様の意見のものもあるようで、生徒の意見もよく聞いて授業改善等の指導に生かしてもらいたい。

F委員：保護者アンケート「学校からの緊急連絡の受け取り方を知っている。」について、隔年で数字が上下している理由を分析し、連絡方法の周知の改善に努めていただけますようお願いしたい。

准校長：昨年度との比較についてのみとなるが、次のように考えている。令和2年度コロナ対応による休校連絡など学校から保護者・生徒向けの「ライドン（一方通行のメール配信）システム」により緊急連絡をする機会が多かった。そのため、生徒も保護者も実感が高くなり数値も上がっているのではないか。今年度は、本校は幸いにも一斉休校を実施することがなかったため、緊急連絡をする機会もなかった。そのため「緊急連絡」を必要とする場面を体験していない層（1年次生）もおり実感としてないことから、このような結果になっているのではないか。「ライドン」システムへの登録のお願いと方法については、例年、3月の入学者説明会に行っており、登録者数そのものは令和2年度、3年度と大きく変わっていない。早い時期に登録を完了してもらうためその時期にしているが、入学式などに再度緊急連絡について説明をしてもよいと考えている。また、令和4年度学校経営計画（案）にもある通り、メール配信サービスを日常の教育活動等の周知や広報に活用することで、メール配信システム利用の実感をもってもらえるように考えている。

F委員：教職員アンケート「准校長は学校運営にリーダーシップを発揮している」「教職間の相互理解がなさり、信頼関係がある」について、分析と対策を是非お願いしたい。

准校長：私もそのように考えている。しっかりと取り組みたい。

(3) 後期授業アンケート結果について

准校長：少しではあるが、前年度よりすべての項目についてポイントが上がっている。授業改善に取り組んできた結果であるならばうれしく思う。

C委員：数字の微細な変化に一喜一憂する必要はないが、「授業に興味・関心をもつことができた」と感じている。」が他の質問項目より低めであったが、3.4以上となりほかの項目との差がなくなってきたのは、よいことだと思う。

D委員：アンケートにはないが、リモート授業などコロナ以降生徒・保護者のニーズも変わってきている。生徒・保護者のニーズをより理解して対応していく必要がある。

C委員：1（否定的）～4（肯定的）の指標中、3.4以上ということなので少しの数字の変動に惑わされる必要はない。固定の生徒が「1」「2」ばかりをつけている場合などは、その生徒への見守りや配慮が必要な場合がある。回答の分析方法については様々な視点があること理解したうえで、結果を活用し、生徒にとっての良い授業を模索していってもらいたい。

(4) 令和4年度教科書採択について

准校長：今年度の教科書採択の手順及び採択した教科書は資料の通りである。

委員：特に異議はない

【協議事項】

(1) 令和3年度 学校経営計画に係る学校評価（案）について

准校長より説明

各委員からのご意見

B委員：学校説明会について。「保護者の方のお話」や「生徒の体験談」が本校の学校説明会の良いところだと思う。自分も受験生の親として参加もした。本当に涙が出るほどの思い出話を聞いた。また、在校生の保護者の代表として登壇もした。このような取り組みはぜひ継続してほしい。

C委員：大学でも、受験生にとって生徒の体験談が一番聞きたいところであろう。ぜひ取り組んでもらいたい。

議長：「令和3年度 学校経営計画に係る学校評価（案）」について、承認いただけるか。

各委員：承認する

(2) 令和4年度 学校経営計画（案）について

准校長より説明

各委員からのご意見

D委員：取り組みの重点目標に「地域連携強化」がある。是非連携を深めていきたい。今年度は、小・中学校向けにオンラインによるボランティア体験自習なども企画・実施した。桜塚（定時制の課程）とも生徒主体の取り組みについて、協力して連携の方法を模索していければと思う。

准校長：本校としてもこれからどんな取り組みができるか是非お知恵をいただきたいと考えている。

A委員：福祉協議会など地域の福祉との連携の話が出たが、最近の生徒は、内面の複雑な課題を抱えている者が多いようにも思うので、大変必要で重要なことだと思う。しかし、相談員など外部人材が来ても、いつ生徒とかかわってもらえるのか、授業の時間帯は授業優先であるだろう。SNSでの人間関係などから大事に発展することも多いと聞く。緊急な時に相談できる体制が学校にあることは重要だ。

准校長：次年度は、府の予算からSSWの回数などが増加する予定である。また、本校の校内体制としても大学でカウンセリングを専門に学んだ教員を「教育相談」担当者とするなど校内の相談体制を充実させたいと考えている。

B委員：子どもが中学生の時にSC（スクールカウンセラー）を利用したことがあるが、それはそれで敷居が高く感じた。まずは、「誰にでも相談できる」体制や雰囲気がありがたいと思う。外部人材もだが、校内に「教育相談」の先生がいることはよいことだと思う。

准校長：資料の通り、次年度から校内での外聞人材、郊外での外部人材、校内体制など総括的に本校の支援・相談体制を整えていきたい。ご協力をお願いしたい。

E委員：「確かな学力の育成」について、今までの授業力向上チームの形成から一歩進み、次年度計画には、（生徒に身に付けさせたい力など）具体的な指針や方向性が示されている点が良い。一方、学力の土台づくりができる教育の醸成には、時間がかかるし生徒への成果がすぐに見えるものではない。自身の経験から、10年前に取り組み始めたことが今やっと（他者の）目にも見えるものになってきているように思われる。長期的な視野で粘り強く取り組んでもらいたい。

准校長：「単年度」や「管理職が変わったから」という理由で、学校の教育の方向性が変わるのは、そこで働く教職員にとってももちろん子どもにとってもよくはない。そうならないためにもまず外部人材によるコンサルテーション的要素を含む継続的な教職員研修を計画している。教職員が、（これからの教育課題などを自分事で捉え）自律的に考えて働くことのできる集団づくりをめざしたい。

議長：「令和3年度 学校経営計画に係る学校評価（案）」について、承認いただけるか。

各委員：承認する